



SanKen

*Power Electronics for
Next "E" Stage*

サンケン電気
サンケングループ

2014 CSR報告書

Power Electronics for Next "E" Stage

編集方針

本報告書は、2013年度の当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) 活動をステークホルダー (利害関係者) の皆様にお伝えすることで、コミュニケーションの向上と活動内容の充実を目指す目的で作成しています。

報告対象期間

2013年度 (2013年4月1日～2014年3月31日)

* 一部の報告には、2014年度の活動計画を含みます。

報告対象組織

本報告書の対象組織は、サンケン電気株式会社およびグループ会社としています。

ホームページでの開示

本報告書は、下記アドレスからもご覧いただけます。

<http://www.sanken-ele.co.jp/corp/csr.htm>

発行について

発行 2014年6月

次回発行 2015年6月 < 予定 >

参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン」(2012年版) 環境省

「サステナビリティ レポーティング ガイドライン」(GRIガイドライン第4版)

お問い合わせ先

サンケン電気株式会社 管理本部 CSR室
〒352-8666 埼玉県新座市北野三丁目6番3号
TEL 048-472-1116 FAX 048-472-1158

サンケン電気 2014 CSR 報告書

CONTENTS

編集方針	1
トップメッセージ	3
わたしたちの製品が使われているところ	5
半導体デバイス事業 / PM 事業 / PS 事業	
2013 年度グッドデザイン賞受賞	
特集 1 環境対応製品	6
特集 2 女性人材を活用した CSR 推進活動	9
特集 3 新座市サンケン通りに自社製 LED 街路灯を設置	11
特集 4 LED ペットボトル [®] が地域活性化のために各地で活躍	13
■ コーポレート ガバナンス	15
CSR の取り組み	
CSR 体制	
CSR 委員会、内部統制推進委員会、内部監査	
情報セキュリティ、危機管理、輸出入管理、知的財産	
■ 社会 (ステークホルダー)	19
お客様との関わり	
株主・投資家との関わり	
お取引先との関わり	
従業員との関わり	
社会・地域の皆さまとの関わり	
■ 環境	25
環境活動の考え方、環境活動体制	
環境パフォーマンスと具体的な活動	
GRI ガイドライン対照表	29
会社概要	30

時代の変化を見据え、社会との持続的な共生を

はじめに

私たちの身の回りには、自動車、家電、OA 機器、産業用設備から照明灯具にいたるまで生活に便利なエレクトロニクス製品が多数存在しています。これら製品の根底を支えているのが、半導体製品や半導体を応用した電源機器製品です。

一方で今日のエレクトロニクス分野は、近年ますます製品ライフサイクルの短命化とともに、エコ・省エネニーズからの技術変化やグローバル化が急速に進展する事業環境の中にあります。

その様な状況の中、当社はステークホルダーであるお客様、お取引先様、地域社会、株主の皆様、従業員に支えられ、これまで培ってきた技術力を基盤として、より創造性と先進性あふれる製品をタイムリーに供給してまいりました。これからも半導体の開発を通じ社会に貢献できるメーカーとしての存在感を更に高められよう、挑戦し続ける企業でありたいと考えております。



サンケンのCSR 経営

当社は「創立宣言」において、「産業・経済・文化の発展への寄与」を掲げており、その精神は「経営理念」において「半導体をコアビジネスに、パワーエレクトロニクスとその周辺領域を含めた最適なソリューションを提供することを使命とし、世界各地の産業・経済・文化の発展に寄与する」と明記され現在へ引き継がれています。

当社グループはこの「経営理念」の実践を通し、社会貢献することをCSR 活動の軸として、「社会との関わり」、「厳正な企業経営」そして「地球環境の保全」といった観点から CSR の取り組みを行っています。

当社は2012年度に3カ年の中期経営計画をスタートさせ、「Power Electronics for Next “E” Stage」をスローガンに掲げて取り組んでいます。これは、当社のコア事業である「Power Electronics」の分野において、エコ・省エネ技術(Eco-Solutions)を活かしたグローバルな市場展開を図り(Expansion)、また、開発・生産・販売・人材といった要素をそれぞれ進化(Evolution)させることで、更に一段上の企業(Next Stage)を目指すという意志を込めています。

特にエコ・省エネ技術(Eco-Solutions)においては、今後益々拡大が期待される自動車、白物家電、産業機器市場への積極展開を図り、本業である「パ

目指して

ワームの変換、制御に関連する製品開発」を促進することで「地球環境の保全」に寄与して行きたいと考えております。

このエコ・省エネ技術で求められている高効率で待機電力を抑えた AV・OA機器、インバータ化された白物家電・産業機器での消費電力削減、パワーコンディショナーによる自然エネルギーの創出、電子化の進む自動車での燃費向上などにより、CO₂削減の貢献に寄与してまいります。

当社はコアコンピタンスとして、「パワー半導体を生み出すプロセス技術」、「IC・LED・センサー製品を仕上げるアッセンブリ技術」、「電源ユニットへ組み上げる回路技術」、そして「大型電源を構築する装置化技術」のすべての要素技術を有しており、これらの「トータルソリューション」を活かすことで、エコ・省エネを実現するための多様な製品の提供に努めてまいります。

今後の取り組み

今後も日本の省エネ規制、国際エネルギースタートアッププログラム、欧州 ErP 指令、米国エネルギー省の DoE 規制、米国 EISA2007 改定等が製品の電源部分の効率に厳しくかかわってきます。さらに自動車に関しては世界各地でより厳格な燃費規制、排出ガス規制が適用されつつあります。



これらの課題を先取りし、社会が求めている高品質な「エコ・省エネ製品」を提供していくことで、ステークホルダーの皆様の期待に沿えるよう努めてまいります。

一方、最近ではとくに注視されている「厳正な企業経営」のためにコンプライアンスおよびリスク管理を徹底しガバナンス強化を図ってまいります。

変化の著しい 21 世紀に勝ち残り、そして企業に課せられた社会のニーズに対応するために、事業活動と CSR 活動を一体化させた CSR 経営を着実に成果に結びつけ、全てのステークホルダーの皆様からこれまで以上のご信頼をいただき、また世界の産業・経済・文化の発展に貢献する価値ある企業と認めただけできるよう、邁進してまいります。

本 CSR 報告書をご一読いただき、当社の CSR に対するご理解を深めて頂ければ幸いです。

2014 年 6 月

サンケン電気株式会社

代表取締役社長

飯島貞利

「わたしたちの製品が使われているところ」

当社製品は、成長著しいエコ・省エネ関連分野において、自動車、白物家電、LED照明、産業機器などのさまざまな製品に使われています。更に、新エネルギー、グリーン・インフラ市場へ商品展開していくことで省エネに貢献しています。

法律に義務づけられた高層建造物に設置され、航空機の安全航行を確保



「高光度航空障害灯」

落雷や停電、予期せぬ電源トラブルから、ハードウェアやデータを守る

「無停電電源装置」



オフィス、FA、通信機器向け

「半導体デバイスやユニット電源」

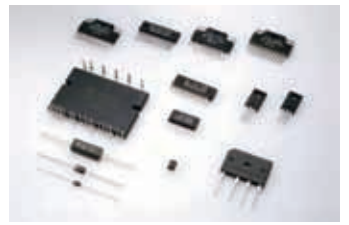


高度な情報・通信化社会を支える通信基地局用

「直流電源装置」

エアコン、洗濯機、冷蔵庫などの家電製品や太陽光発電向け

「半導体デバイス」



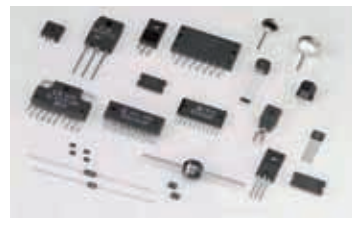
「LED照明灯具」

省エネ、省資源、長寿命で次世代の照明として注目



自動車向けの様々な制御部分に搭載

「半導体デバイス」



新製品紹介! 2013年度グッドデザイン賞受賞

調光調色機能付きLED照明器具 / ランプ

NVR2ZA0001

省エネと心地よさで快適な光環境を実現 ~快適ライフゾーン~
(地球にやさしい 環境にやさしい)



NVR2ZA0001
(調光調色機能付きLED照明器具:ベース照明)

他社に先駆け、ダイヤル1つの操作で「色」と「明るさ」を調整できるLED照明を開発しました。従来、「色」と「明るさ」を調整するためには2つ電源が必要であったところ、1電源化を実現し消費電力を約20%削減。昼白色から電球色までを調節し、調光機能により作業内容や雰囲気に応じた空間演出することができます。

特長: 選べる3つのモードで「場」に応じた空間演出が可能

- (1) 調光&調色 同調モード…デスクワーク、休憩・団楽
- (2) 明るさキープ調色モード…明るさに順応した「穏やかさ」または「涼しげさ」
- (3) 電球色キープ調光モード…就寝、読書など

主な用途: 多目的空間、病院・介護施設、オフィス、デザイン店舗、美術博物館、など

エアコン用モータードライバー IC でモーター停止時の消費電流を 1/10 に低減

エアコンは、日本における消費電力量に占める割合が非常に大きいため、新製品の省エネルギー基準は現在商品化されている最高性能の製品以上に定める「トップランナー方式」が導入されています。

高く厳しい設定値をクリアするため、当社では、新製品としてモーター

停止時の消費電流を大幅に低減できるモータードライバー IC を開発しました。エアコンでは設定した温度を室温を超えた時に一時的に送風停止しますが、その時の消費電流を従来品と比較し 90% 低減させたものです。

今後は、別形状のパッケージでも同様に、モーター停止時の消費電力低

減の技術開発を行っていく予定です。



	従来品	開発品
モーター停止時	0.1W	0.01W

※モーター停止時間が室温によって異なるため、CO2 排出量の算出はできません。

ハイブリッド車 (HV) / 電気自動車 (EV) 用電源コントロール IC (SFA0002)

低炭素社会に向けた取り組みから、車メーカーには HV/EV 車両用の補助用電源開発の必要性が高まっています。その補助用電源に用いられる IC 「SFA0002」 は、軽負荷時にオートバースト回路という間欠発振モードを追加することで 効率アップと出力電圧精度向上の効果を上げることができました。CO₂ 削減率は使用状況により異なりますが、確実に消費電力量

は減少しています。

また、軽負荷時に出力電圧上昇を抑えるオートバースト回路を内蔵した事で、周辺部品を従来の製品に対し 15% 程度削除する事が可能になりました。車全体の部品数量削減で省資源につながっています。

中身のチップサイズも同様の性能を維持しながら、開発品では小型化を実現してより省エネにつなげています。

今後は、この製品を標準に置き、機能追加等を検討していきたいと考えています。



	従来品	開発品
チップサイズ	3.35 mm × 2.3 mm	2.30 mm × 1.84 mm

※チップサイズ比較

低ゲート容量 低圧 MOSFET GKI、DKI、FKI、EKI、SKI シリーズ

スイッチング性能指数 FOM を大幅に改善し、低損失、高効率に貢献

外部電源 (EPS) に対する効率規制や Erp 指令の効率要求の厳格化が、複合機、液晶テレビ電源、各種アダプターなどにも拡大しており、従来ダイオードで整流していた箇所に、大型の高効率電源で使われていた MOSFET を使用する例が増えています。それに伴い、AC/DC 電源 2 次側整流用 (同期整流) 回路、DC/DC コンバータを主な用途とする低ゲート容量の低圧 MOSFET を開発しました。

従来品と新製品のスイッチング性能指数 (FOM) 比較すると、新製品は、低オン抵抗と低ゲート容量 (Qg) を両立することで FOM を従来品に対し 68% 削減しました (60V 耐圧品の場合)。

低ゲート容量の実現により、スイッチング損失を低減し、電源回路の効

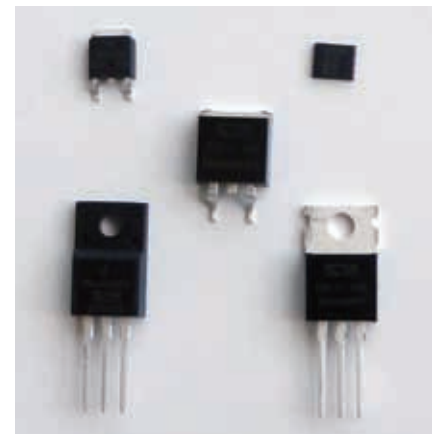
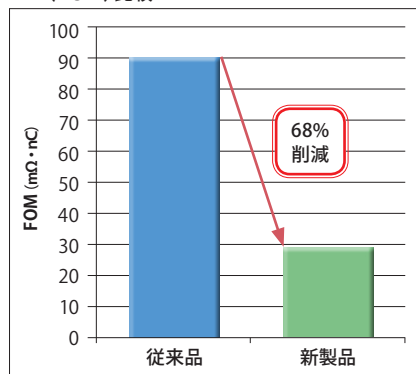
率を向上できます。また、高速スイッチングが可能のため、トランスを小型化でき、基板実装面積を削減できます。

小型薄型 (DFN5 × 6) から大電流用 (TO220 タイプ) まで 5 種類のパッケージと 30V、40V、60V、75V、100V の 5 種類の耐圧を準備し、一

挙に 72 品種をラインアップしました。

今後は通信用 DC/DC コンバータやサーバ電源など、さらに低オン抵抗、低ゲート容量が要求される市場に向けて製品ラインアップを追加していく予定です。

図 従来品と新製品のスイッチング性能指数 (FOM) 比較



今までの電源 IC と比較して同じ面積、同じ外付け部品点数で高効率な電源 IC を実現

主にロボットなどの様々な生産機械の制御装置の中に入っている電子機器には、様々な直流電源で動作するマイコンや LSI などが搭載されています。これらに電力を供給するために DC/DC コンバータが使用されています。

この回路部品には、今までは効率が約 50% 程度の 3 端子レギュレータという電子部品が使われるのが一般的でしたが、今回当社が開発

した DC/DC コンバータモジュール「MPM80 シリーズ」は、約 90% の高効率な電源を実現できました。

また、外形は放熱効果の高いフルモールド構造の TO220F 相当の小型パッケージを採用した事で、同等の定格電流の DC/DC コンバータモジュールに比べ、体積で約 40% の小型化を実現し、更に基板面積の削減も可能にしました。

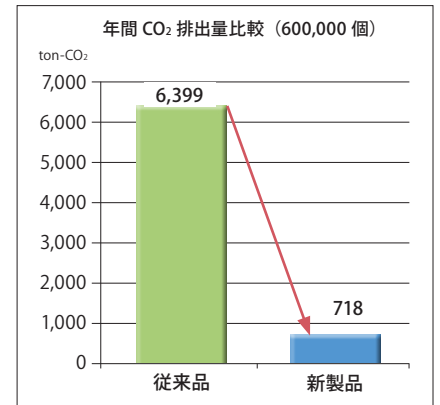
今後の展開としては、表面実装対応品にすること、定格電流値を現在の 2A から 5A にすることなどを考えています。出荷数は、600,000 個 / 年間で予定しており、これにより CO₂ 排出量は約 1/5 になります。

従来部品と開発品の比較

	3 端子レギュレータ	開発品 MPM80 シリーズ
入力 W と出力 W の差	5.0W	1.0W
放熱用ヒートシンク	要	不要
入力 / 出力 外付け部品	電界コンデンサ 数 100uF	セラミックコンデンサ 47uF



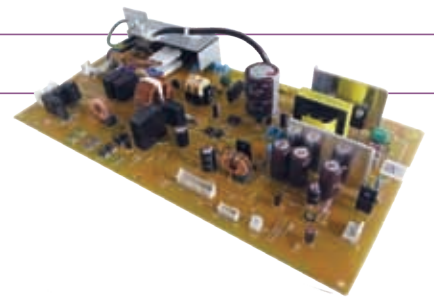
※ DC5V、1A の 5W 出力時



複合機用電源の待機時電力損失低減

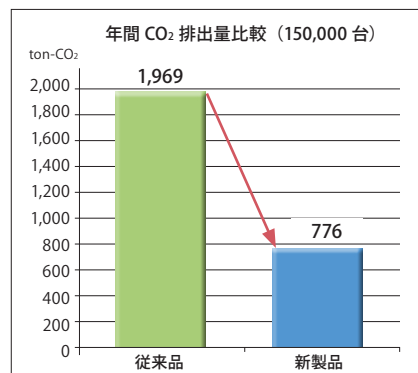
コピー、プリンタ、ファックスの機能を兼ね備えた「複合機」は、近年、ネットワーク対応機種が増えています。省エネに関しても、ネットワークに接続時の待機消費電力削減がポイントになっており、複合機の電源部分には厳しい省エネ規格が課せられています。

複合機のスタンバイ時には、ヨーロッパの省エネ規格である「ErP 指令 Lot.6」、ネットワークスタンバイ時には「ErP 指令 Lot.26」に対応しなければなりません。そのためには、ファックスや LAN に接続している際のネットワーク待機電力を 4.0W 以下にする必要があります。



従来品と開発品の消費電力比較

	従来品	開発品 1L623HA
待機時消費電力	1.0W	0W
ネットワーク待機時消費電力	4.5W	2.0W
使用材料部品点数	ほぼ変わらず	



※待機モード稼働時間 8 時間 / 日、ネットワーク待機時稼働時間 14 時間、CO₂ 換算係数 0.487kg-CO₂/kwh にて算出

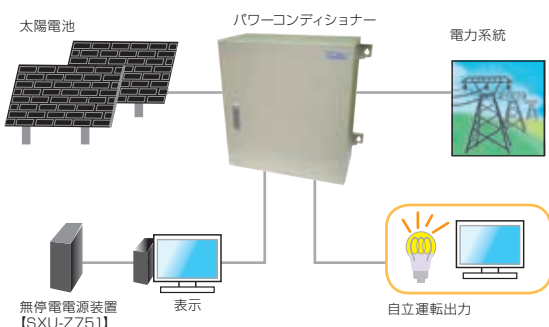
新たに開発した複合機用電源「1L623HA」は、ErP 指令 Lot.6 に対応した待機時電力に関して、完全に 0W を達成しました。また、ErP 指令 Lot.26 に関しては、ネットワーク環境に接続した状態で待機時電力 2.0W を達成しています。

出荷台数は 156,000 台 / 年間で予定しており、これにより CO₂ 削減効果は図のようになります。

今後も、年々厳しくなるヨーロッパの省エネ規格に先行対応していくように考えています。

太陽光発電用パワーコンディショナー

本製品は、太陽光発電システム用として開発した単相3線式の10kWの災害時自立運転機能付きパワーコンディショナーです。主に公共産業用として学校、公民館、集合住宅、工場などで導入されています。電力会社からの電力がストップした状態でも、太陽光発電で発電した電力を使用できる自立運転機能により、停電時でも日射量があれば電力をまかなうことができます。



特長

1. 入力範囲が広いので様々な太陽電池パネルに対応できます。
2. 低騒音です。不快なモスキート(蚊)音を低減したことにより設置場所を選びません。
3. 独自の高周波技術を採用することにより、小型・高効率(93.0%)です。
4. 電解コンデンサやファンを厳選し、15年の長寿命設計です。(設計理論値)
5. (財)電気安全環境研究所(JET)認証を得ているため、申請手続きが簡素化できます。
6. 環境にやさしいRoHS指令対応部材を使用しています。



太陽光発電10kWシステムの年間発電量は、約10,000kWh(地域で異なる)で、これにCO₂換算係数0.487kg-CO₂/kWhをあてはめると4.87トン-CO₂/年の削減になります。当社は2014年度に約2,000台の出荷を目標としており、全て稼働すれば、9,740トン-CO₂の削減に寄与することになります。

今後の展開としては、入力電圧が高い直列接続の太陽電池パネルの場合でも対応できるように、入力電圧範囲が150V~160Vのタイプを検討しています。また、蓄電システムとの組み合わせも開発中です。

軽くて明るいLEDスリム施設灯 水銀灯代替等 長寿命でランニングコスト削減

世の中では「地球にやさしい/環境にやさしい」LED灯具に交換していく傾向が強まっています。当社は、様々なLED灯具を開発・提供しており、この度、工場、体育館などの高天井施設用のLEDスリム施設灯を開発しました。

この製品は、軽量化することで施工性が良く、安価で明るく長寿命で

す。電源回路設計で培ってきた技術を活かし、電子機器の誤動作の原因となるノイズを低く抑え、国内自主規制の厳しい値をクリアしています。それに伴い、周辺機器へのノイズ影響も大幅に低減しています。

2012年CSR報告書で紹介した「従来品」は、デザイン性に優れたLED施設灯で現在も販売中です。今

回の「開発品」は、それを軽量化し明るくした廉価版であることが特長です。

元々、水銀灯(400W)であった照明を開発品(158W)に交換した場合、約61%の消費電力削減につながります。

今後は、20,000ルーメンよりも明るい高出力の特種用途のLED施設灯や、大型スーパー等の商業施設

	従来品 NVCA5009SA50NB	開発品 NVCB0006SA
ルーメン	11,000 lm	20,000 lm
重量	9.1kg	4.6kg
消費電力	110W	158W
変換効率	100 lm/w	126 lm/w
設置場所	屋内外	屋内
寿命	60,000時間	



の埋め込みタイプの大型ダウンライトの開発を行い省エネに貢献していきます。

サンケングループ国内全社が各地で次世代育成の子ども工作教室を開催

当社グループでは「CSR 活動の推進」を目的に、各部署、各関係会社から代表の若手社員、女性社員を選出し、約 30 名で構成する「CSR 推進会議」を定期的で開催しています。

打ち合わせの中で当社が社会に貢献できるものとしては、地元の各地域で行う「子ども工作教室」が効果的で

あると考えました。

当社の技術力を用い、当社の製品の LED を使った工作物で展開を図ることとし、2013 年度はグループ会社各社で実現しました。各 CSR 推進者は、開催したことに充実感を得ており、2014 年度も更に拡大したいと話をしてしています。

「いしかわ環境フェア」

石川サンケン
サンケンオプトプロダクツ

開催日：8月24日（土）、25日（日）
場所：石川県産業展示館 4 号館
内容：「あぜのきらめき」等の CSR 活動パネル類、LED 照明を展示するとともに「LED ペットボトルの子供工作

教室」を開催。子供の評判も良く、親御さんにも興味を持っていただけました。また、LED 照明についてのご質問も多数いただきました。



石川県

「エコプロダクツ川越」(川越市初めての試み)

サンケン電気

開催日：8月4日（日）
場所：川越市環境プラザ（つばさ館）
特長：環境に配慮した当社製の LED 照明展示を行い、催し物として「LED 工作教室」「3 原色から白の体験の実験」「あぜのきらめきパネル展示」を実施。LED 工作教室は子どもたちに好評で、投票の結果、最優秀賞を川越市長からいただきました。



埼玉県



「第 22 回 町田エコフェスタ 2013」

サンケン電気

東京都

開催日：10月27日（日）
場所：町田リサイクル文化センター
特長：「エコライフ 広げるアイデア 明るい未来」をテーマに LED 照明を展示する傍らで中学生以下を対象に、LED・ソーラーパネルに触れ、発電充電を理解してもらうコーナーを設置。また、工作教室を行い、LED ペットボトルを作成して持ち帰っていただきました。





山形県

山形サンケン

「大森だんじろうの環境実験室」

開催日：11月17日（日）
 場所：東根市さくらんぼタントクルセンター
 特長：当社が所属する大森工業団地連絡協議会環境部会が開催し、山形サンケンが「LED ペットボタルを作ってみよう」という工作教室を出展しました。東根市に対する地域貢献とLED 照明を知ってもらうためにLED ペットボタルを活用しました。山形サンケンとしては初めての試みのため、本社 CSR 推進者も出展に協力し、約120名の参加者にペットボタルを作成いただき交流を深めました。



福島県

福島サンケン

「二本松市夏休み子供教室」

開催日：7月27日（土）
 場所：二本松市市民交流センター
 特長：15組の親子に参加いただき、協力して「LED で光る蛍」を製作しました。本物の蛍の生態も勉強しながら工作で、はんだ付け作業にも挑戦し、大変満足のいく出来栄であったようです。



千葉県

鹿島サンケン

「鴨川市棚田の夜祭り・もうひとつのキャンドルナイト」

開催日：12月1日（日）
 場所：鴨川市大山小学校
 特長：鴨川青年会議所が主催で、「太陽光発電のLED ペットボタル子供教室」を実施。そこで豆知識として「LED（発光ダイオード）について」を説明し、LED ペットボタル工作を行いました。自分で作ったペットボタルは、LED モニュメントに飾り付けて楽しんでもらい、参加した親子約70名に大変喜ばれました。



これからも当社らしい本業を活かした社会貢献活動を行い、企業価値向上につなげていきます。

当社は自社製「LED 街路灯」を通称「サンケン通り」に設置し地域貢献としてこれら新座市に寄贈いたしました。平成 25 年 6 月 10 日午前 10 時より、新座市役所市長公室において、新座市長主催「寄贈式」が執り行われました。

須田新座市長からは、「新座地域の防犯灯をできるだけ早く全部 LED に換えなければならない。特に、防災面で『ハイブリッド LED 街路灯』が有効である。」というお話をいただきました。また、「地元企業の活躍は、市としても誇らしいものです。市で街路灯を導入する際には、ぜひ担当者にアドバイスをお願いします。」とも仰っていました。



LED 街路灯× 7 基
NVSA5002SA5-V8C



構内水銀灯× 8 基

サンケン

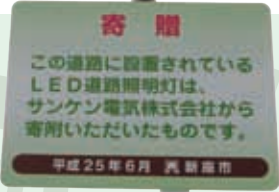
水銀灯× 13 基

- 【目的】** 地域治安向上（夜間暗く、危険、犯罪の温床）
- 【概要】** サンケン通り（通称）に当社製 LED 灯具を設置
- (1) 構外：サンケン通り設置分は新座市に寄贈
市所有の水銀灯、蛍光灯を LED 防犯灯に置き換え寄贈（14 基）
 - (2) 構内：①従来水銀灯を LED 街路灯に置換（7 基）
②従来水銀灯をハイブリッド LED 街路灯に置換え（1 基）



ハイブリッドシステム LED 街路灯× 1 基

- : 水銀灯 → LED 街路灯
- ↳ ハイブリッドシステム LED 街路灯
- ▼ : 水銀灯
- : 蛍光灯
- } → 新型防犯灯



蛍光灯× 1 基



新型防犯灯× 14 基
NVS20008SA5SN



「埼玉県 新座市 北野」 付近の地図

サンケングループは地域社会の良きパートナーを目指し「本業を活かしたCSR活動」
このページでは当社の照明技術、回路技術が地域活性化に役立っている事例を紹介

当社が技術供与をした LED イルミネーション 「輪島・白米千枚田あぜのきらめき」

日本海を望む棚田とあぜ道を幻想的に照らす光がピンクから黄に綺麗に変化し、観光客の関心を集めています。

★ 開催期間：2013年11月9日～2014年3月16日

★ 主催：石川県輪島市

★ 協賛：石川サンケン、サンケンオプトプロダクツ

開始年度：2011年 / LED ペットボトル：21,000個

今年の特長：30分ごとにLED色がピンクと黄に切り替わる



「LED ペットボトル[®]」とは？

「ペットボトル[®]」の仕組みはペットボトル容器に「太陽光パネル」、「充電電池」と「LED」を組み込んだもので、昼の太陽エネルギーで発電・蓄電し、暗くなるとLEDが自動的に点灯するといういたってシンプルな発光装置です。



「あぜのきらめき」イベントでは、昨年以上に多くのボランティアの方が活動されていました。

その中で 石川SK、SKOからの協力は統制の取れた一体感がある素晴らしいもので、輪島市役所の方も感心されていました。

当社本業を活かした地域貢献であり、来場した方々に楽しんでいただきました。



家族での参加も目立ちました。



を基本とし地域との共生を図っています。
します。

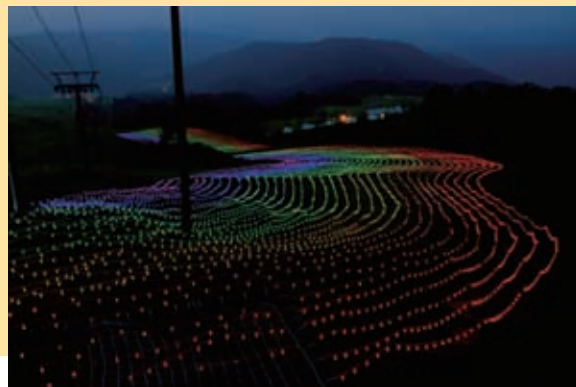
富山牛岳温泉スキー場では「虹のかけはし」を開催

★開催期間：2013年7月27日～9月6日

★主催：富山県富山市 ★協賛：サンケンオプトプロダクツ

開始年度：2013年（富山市から要請あり）／LED ペットボトル：28,000 個

特長：7色のLED ペットボトルを水平に張った鎖に吊り下げる方法で設置（初めての試み）



あだたら高原スキー場では「あだたらのかがやき」を開催

★開催期間：2013年8月2日～9月23日

★主催：福島県二本松市 ★協賛：福島サンケン

開始年度：2012年／LED ペットボトル：5,000 個



震災復興祈念・「棚田の夜祭り」にLED ペットボトルを使用

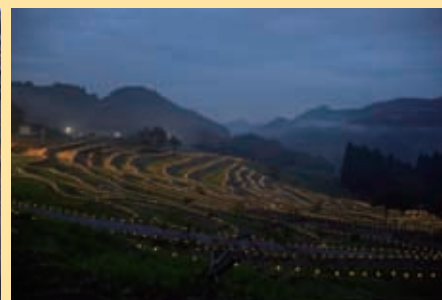
★開催期間：2013年10月29日
～12月25日

★主催：千葉県鴨川市

★協賛：鹿島サンケン

開始年度：2013年（大山千枚田
棚田倶楽部から要請あり）

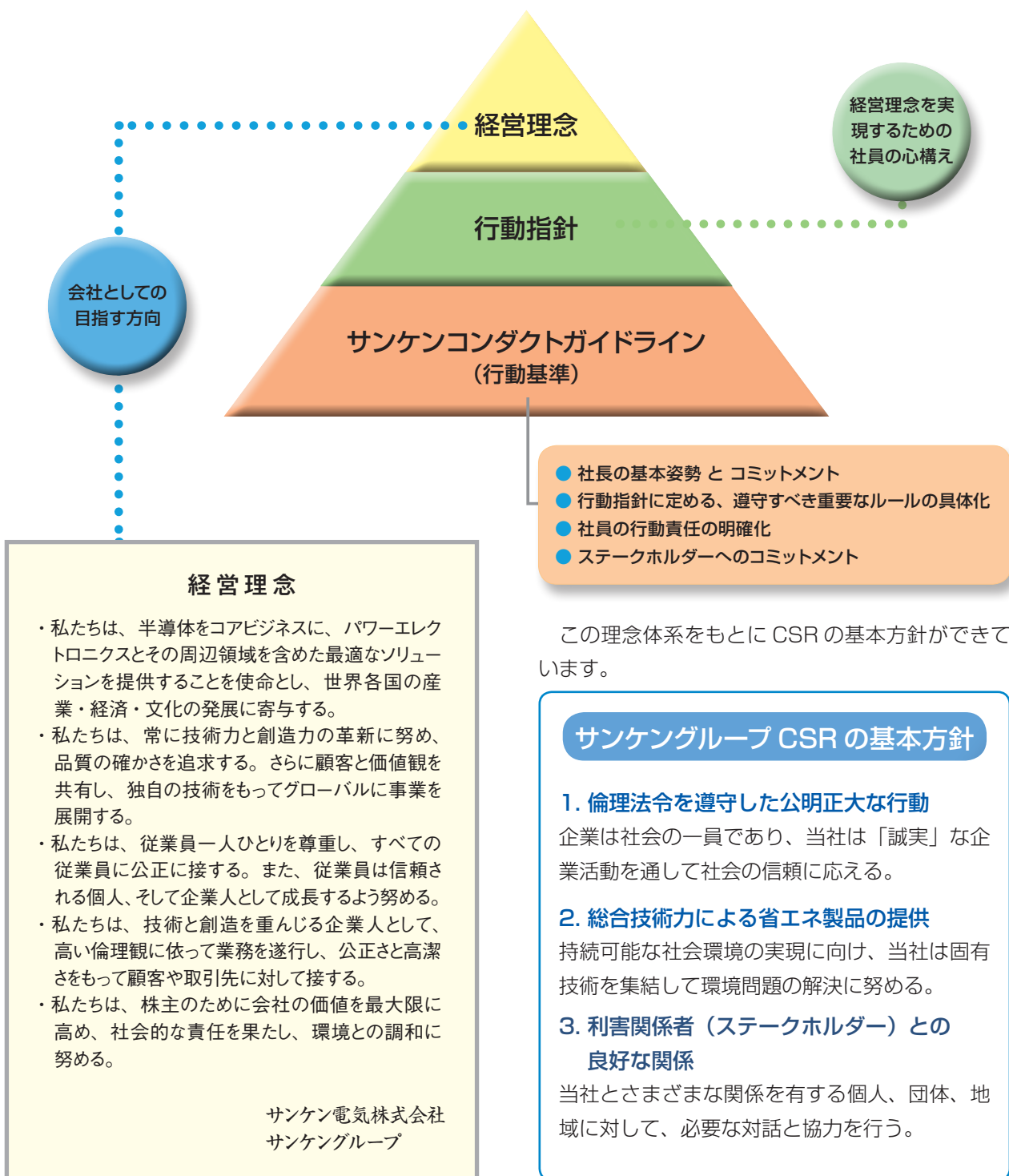
LED ペットボトル：10,000 個



経営理念の実践を通して、CSRの実現を目指します。

サンケングループの CSR

サンケングループの理念体系は、経営理念、行動指針、コンダクトガイドライン（行動基準）の3つで構成されています。



誠実で存在感のある会社を目指し、
管理体制の充実を図っています。

当社は企業価値の向上と社会的責任（CSR）を果たすため、経営目標の設定ならびにその執行を適正に行う仕組み（コーポレートガバナンス）の充実を図っています。

コーポレート ガバナンス体制

当社は会社の運営に必要な機関として、「取締役会」「監査役会」「会計監査人」を設置しています。

また、執行役員制度の導入による経営と執行の分離、内部監査および内部統制評価によるコーポレートガバナンス体制の整備を進め、経営の透明性の向上に努めています。

会社の機関とその状況

・取締役会

経営上の意思決定機関で、経営戦略や経営目標などを決定します。

事業年度の経営責任の明確化を図るため、任期は1年で取締役就任しています。

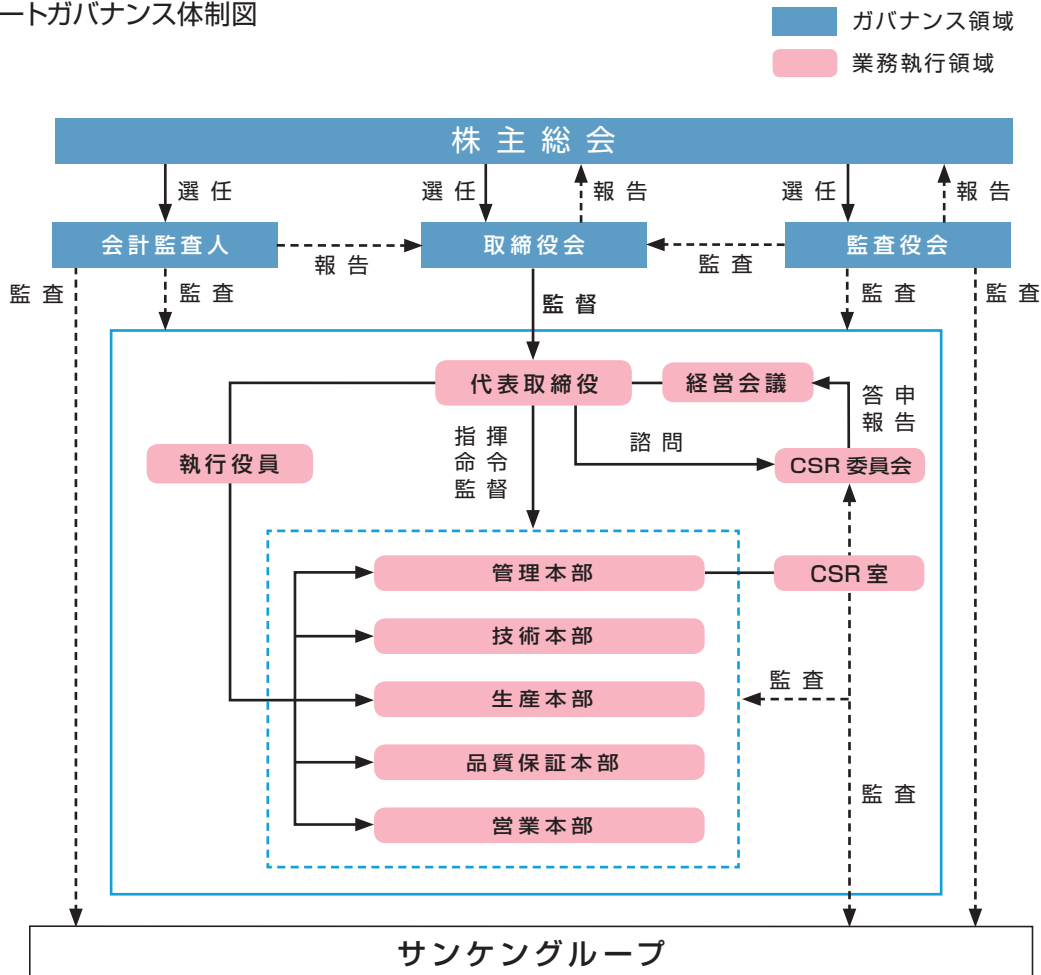
・監査役会

取締役の業務執行状況やその他の業務管理体制を監視する職務を負い、社外監査役も就任しています。

・会計監査人

当社は、新日本有限責任監査法人による外部監査を受けています。

コーポレートガバナンス体制図



さまざまな委員会や専門組織が、CSRの推進を図っています。

当社は責任ある企業活動の推進によって企業価値の持続的な向上を図ります。

CSRの組織全体への浸透と実践に向け、「CSR委員会」が組織横断的な専門組織としてCSR活動の推進を行っています。

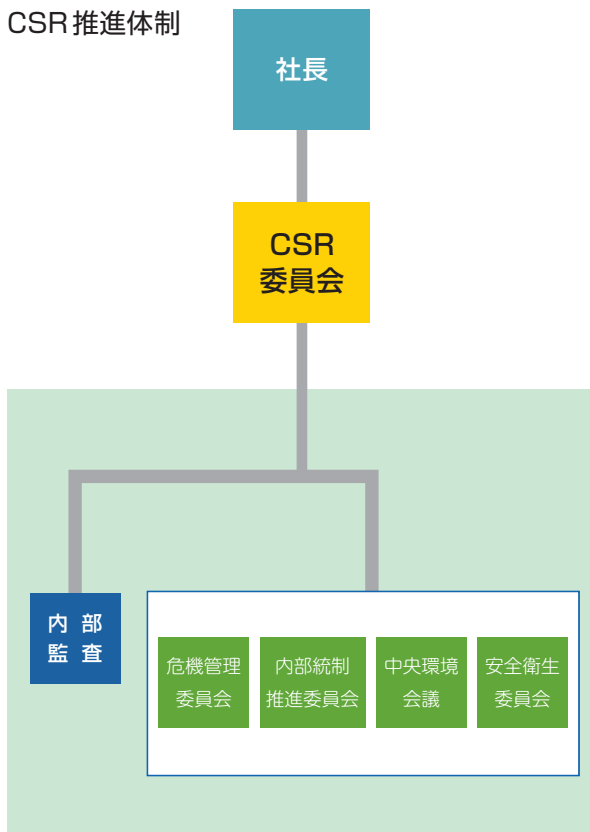
CSR委員会

(基本方針)

1. 経営理念、経営計画への適合
2. 経済・法令・倫理的なリスクコントロール
3. 活動結果の開示と多様な関係者との対話

CSR委員会は、各本部長が委員として任に当たり、グループ全体のCSR活動を統括しています。

CSR推進体制



内部統制推進委員会

内部統制推進委員会は、管理本部長を推進委員長とし、内部統制の整備状況及び運用状況の確認、その際に発見された不備の是正を迅速に図り、内部統制を推進しています。

2013年度の内部統制活動としては、1. 実質的なリスクに対応した内部評価 2. 海外拠点への積極的アプローチ 3. 制度変化対応、基幹システム変更対応等を推進してきました。

内部統制推進委員会による評価結果は、「内部統制報告書」に記載され、代表取締役提出されます。2013年度においても、新日本有限責任監査法人による「適正意見」が表明され、当社の内部統制の有効性が確認されました。



内部監査

当社は、「コンダクトガイドライン」(行動基準)による倫理法令遵守を目的とした「内部監査」を実施しています。内部監査の結果は、経営層ならびに監査役に報告され、必要に応じて当社グループを含む業務に反映されています。

2013年度は、前年度に続きリスクアプローチに基づく重要性、影響度を評価したテーマを重点的に監査しました。また、コンピュータ利用監査技法(CAAT)の活用も広げ、経営者のニーズに合った内部監査の付加価値の実現(改善提案)を図り、経営者のリスク管理支援を推進してきました。

リスク管理を強化して、 事業の継続性を確保しています。

事業活動には、その目的の達成を阻害するさまざまな事態が発生します。当社ではこのようなリスクを事前に防止するため、計画的に社内体制の整備を進めています。

情報セキュリティ

当社では、取引先との契約条件、技術情報、製造条件等の企業秘密・情報資産の保護管理を強化するため、「情報管理規程」を制定し、情報漏洩防止の徹底を図っています。また、個人情報保護法や不正競争防止法に則り、保護すべき情報の範囲やその管理方法を定めた手順書も整備しています。

情報セキュリティ教育は、定期的に各部門で実施されています。教育や情報管理手順などの実施状況についてはCSR室の監査もなされており、その結果をもとに部門の情報管理体制の強化が図られています。

外部と接続する通信ネットワークに関しては、外部からの不正侵入の防止対策強化を図るとともに、通信記録の保護と監視、ネットワーク使用に当たったのガイドライン策定といった対策を講じており、実効性を確保しています。

危機管理

当社では、地震や火災などを重大なリスクと捉えており、災害発生時の被害最小化と復旧手順を定めた「災害対策マニュアル」・「事業継続計画（BCP）」を策定するとともに、非常時における従業員の安否確認システムを導入し、これらの効果的な運用により重大災害への対応力を高める取り組みを継続的に行っていきます。

また、海外拠点の人的安全管理に関しては、「国際危機対策マニュアル」を策定し、その運用を通じて非常時対応の迅速化を図っています。

これら危機管理体制の維持・強化を図るため、グループ全体を統括する「危機管理委員会」を定期的に開催し、災害対策マニュアル及びBCPの実効性をさらに向上させるための見直しや、国際危機対策

マニュアルの充実などの施策に取り組んでいます。

輸出入管理

輸出入管理を適切に実施するために、当社では、取引対象となる商品、部品、設備、原材料などの貨物およびその関連技術を、社内規則に定められた手順に従い、輸出入規制に該当するかどうかをあらかじめ判定する事で、業務を適正に推進しています。輸入においては、当社の貨物のセキュリティ管理と法令遵守体制の整備状況が評価され、特例輸入者として監督官庁である東京税関よりAEOの認定を受けました。

また、輸出入業務に関連する部門を網羅した「輸出入管理委員会」では、適法性向上を図ることを目的に本業務に係る教育および監査を定期的実施しています。

残念ながら、2013年は、担当者の不注意により、「外国為替及び外国貿易法」に抵触する軽微な違反（輸出許可数量超過）を発生させてしまいました。本事案を鑑みて、再発防止はもちろん、社内に内在しているリスクを洗い出し体制の強化を図りました。

知的財産

事業の競争優位性を維持し、グローバルビジネスを円滑に推進するためには、絶え間ない研究開発によって市場ニーズを捉えた製品をいち早く創出すること、開発成果を各国において知財権で適切に保護することが重要となります。このため、当社では、知財戦略立案の段階から研究開発部門と知的財産部門とが密接に連携し、事業活動と一体化した知財活動に展開することで、効率的且つ効果的な知財権の取得・活用を図っています。

また、事業活動の自由度を損なうことのないよう、研究開発の初期から、他社知的財産権の調査を徹底し、知財リスクの回避と防止に努めています。このような観点から、当社では、エンジニアの知財マインドの醸成にも力を注いでおり、従業員に対して特許を中心とした体系的な知財教育も行っています。

お客様へ最適なトータルソリューションの提供

当社グループは、お客様の声を開発・製造部門までフィードバックすることで高品質・高性能な製品の提供を行い、お客様信頼度の向上に努めています。

LED Next Stage 2014 へ出展

3月4日～7日に開催された「LED Next Stage2014」に出展を行いました。当社社員が技術説明員としてお客様対応いたしました。

会場内でのアンケートの結果から、LED 単品をはじめ、グッドデザイン賞受賞ベースライト、LED 照明用電源、LED ランプ、高天井用施設灯に興味を示す方が多かったようです。

4日間で約 2,000 名のお客様が来場し大変盛況で、営業担当者が説明をする場面もブース各所で見られました。



更なる品質向上に向けて

自動車、医療機器など安全安心を求められる製品には、通常よりも更に高い品質・信頼性が求められています。

サンケン電気と各グループ会社においては安全性、品質、信頼性保証に関する活動を最重要課題として取り組まなければなりません。お客様へ安全・安心な製品・サービスをお届けするため、品質マネジメントシステム (ISO9001、ISO/TS16949)

を運用し、品質管理体制を構築、継続的改善に努め、成果を上げています。

本社品質保証本部の「車載品質統括室」では車載品質の確立はもちろん、各グループ会社を横断した品質管理の統一化の促進、工場立ち上げ支援強化を図っていきます。



テクノフロンティア 2013 へ出展

7月17日～19日に東京ビッグサイトで開催されたテクノフロンティアに出展を行い、3日間で約 1,000 名のお客様が来場されました。

各種半導体 (GaN デバイス、SiC デバイス他)、電源 IC やコントロール IC、またそれらを応用した小型電源や AC アダプタ大型電源を展示し、お客様に情報提供いたしました。

技術開発の社員が説明員を務めており、新技術・新製品に対するお客様含めた来場者の反応を今後の開発品へフィードバックしていきます。

2014 年度も更に効果的でお客様にわかりやすいプロモーションを行っていく予定です。



タイムリーな情報開示を重視したIR活動を推進します。

当社は、積極的なIR活動を推進し、株主や投資家の皆様を始め、様々な関係者（ステークホルダー）に正確で公正な情報をタイムリーに開示し、良好なコミュニケーションを維持できるよう努めています。

利益配分について

当社は、継続的に安定した利益をあげ、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、経営資源の有効活用と経営の効率化による継続的かつ安定的な配当に努めています。

お取引先との関わり

公正・透明・誠実なお取引を通じて共存共栄を図っていきます。

当社は、グローバルな調達活動において国内外の多くのお取引先の人権や労働に関する基本的な権利を尊重するとともに、常に公平で透明なお取引が誠実に行われるように取り組んでいます。

購入に対する姿勢

当社は、購入に関しての基本方針、取引原則および倫理原則を「行動管理基準」に定め、誠実で透明なお取引環境の向上に努めています。

なお、調達業務の運用状況については、監査部門による定期的な確認が行われています。

お取引先選定について

当社では、公明正大な選定を行い、お取引先と最高のパートナーシップが構築できる、購買活動に努めています。

1. 各国の法令・規制・社会的規範の遵守
2. 要求品質・仕様の確保と価格競争力
3. 納期・安定供給力・サービス力（生産変動対応）
4. 技術開発力・提案力（VA/VE）
5. 経営の安定力と積極的な環境対応

IR活動について

当社では、株主・証券アナリストおよび機関投資家の皆様に当社の財務状況や事業戦略を適切にご理解頂くために、定期的に決算説明会を開催しています。また、同時に個人投資家の皆様には、定期的に会社説明会を開催、当社ホームページにて決算短信・有価証券報告書・適時開示情報、および外国人投資家向けのアニュアルレポート（英文）などを掲載し、公平・公正な情報の開示に努めています。

【調達基本方針】

1. 法令を遵守し、環境にも十分配慮します。
2. グローバルな観点で最適調達を目指し、お取引先との相互理解と信頼関係に基づくパートナーシップを構築します。
3. お取引先へオープンで公平な参入機会を提供し、国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず、QCDE 満足を基本に選定を行います。

1 コストの
合理化強化

2 調達SCM
の改善

3 CSR調達
の推進

事業説明会の開催

緊密で長期的なビジネスの発展を図る目的から、当社ではお取引先事業説明会を開催しています。

2014年度は96社（193名）のお取引先を対象に実施し、当社の14年度基本方針、エコ・省エネ・グリーン

市場を核とした成長戦略、「海外市場」（白物・車載・AV・産機）、「汎用品市場」（MOS・IGBT、モジュール）、重点市場とコア技術、グローバル調達推進、調達SCM改善とBCP/BCM導入推進、車載品質への体質改善などが説明されました。

今後も適切な情報の提供を心掛け、相互信頼に基づくパートナーシップの充実を図ります。



労働環境の質的充実に向け、 さまざまな取り組みを行っています。

当社は、「従業員一人ひとりを尊重し、すべての従業員に公正に接する」ことを経営理念に掲げています。この考えを基本として、従業員の能力開発に必要な機会、安全で働きやすい職場環境の整備に注力しています。

仕事と生活との両立に向けた取り組み

当社は働く従業員の仕事と家庭の調和（ワークライフバランス）を重視しており、労働環境の整備と支援体制の充実を進めています。

埼玉県の「ウーマノミクスプロジェクト」から、「多様な働き方実践企業（ゴールド）」の認定をいただいています。女性がいきいきと働き続けられる環境をつくり、従業員の仕事と子育て等の両立の環境づくりを図っています。

また、女性社員はもちろんのこと、男性社員の育児休暇取得促進や子育て参加に関する啓蒙活動も積極的に行っており、「くるみんマーク」も取得しています。



多様な働き方実践企業
(ゴールド)



「くるみんマーク」

	2010	2011	2012	2013
産児休暇者数	5	4	10	2
育児休業者数	9	11	11	9
介護休業者数	0	0	1	0



【社員インタビュー】

管理本部総務人事統括部
二見 かおり

女性が働きやすい職場です



私は、2011年11月に第1子を出産しました。

当社は、出産後も働きやすい環境にあり周囲も仕事復帰する人が多かったため、1年の育児休業を経て復帰を考えていました。しかし、年度途中の保育園入園はとても厳しく、1年4カ月の休業を取得し4月に復帰しました。どこの自治体でも待機児童が多い中、最長2年の休業が取得できることは、とても助かりました。

復帰後は、職場の理解や協力もあり、勤務時間短縮制度を利用して仕事を続けています。サポート休暇を活用し、子供の急な病気などにも対応でき、とても働きやすい環境にいることに感謝しています。

今後も家族との時間を大切にしながら、仕事と子育てを両立させていきたいと思っています。

グループ全体における女性の活躍の推進

当社および国内グループ会社において、中長期的な女性の活躍を推進するため、2012年度から約40名の女性を選抜し、3カ年のポジティブアクションを実施しています。

今年度は取り組みの一環として、外部ロールモデルである女性管理職を講師に迎え、家庭・育児と仕事を両立するためのメンバーへのアドバイスや、女性が活躍するための職場づくりのポイントなど管理者向けのアドバイスも頂き、実体験に基づく貴重な話をして頂きました。

多様化する雇用への取り組み

ダイバーシティ推進の一環で障がいをお持ちの方の雇用活動を継続的に行うため、所轄のハローワークと連携を密にして、幅広く多様な人材の確保に取り組んでいます。

一方、当社のビジネスが一段とグローバル化する中、新卒採用においても積極的に外国人を採用する等将来を見据えた取り組みを行っています。

また、学生向けインターンシップに於いても埼玉県の企画である「海外インターンシップ事業」に協力し、北米の関連会社へ学生2名を派遣しました。

	2010	2011	2012	2013	2014
新卒採用数	13	0	13	0	16
(内 外国人)	2	—	5	—	1
中途採用数	1	3	12	12	—
障害者雇用数	18	21	29	29	—
インターン数	23	30	26	26	—

職場の安全と安心への取り組み

今年度は化学薬品の取扱いと、水銀含有物の廃棄ルールについて活動を行いました。具体的には当社の薬品取扱マニュアルの見直し改訂を行い、薬品取扱マニュアル講習会を開催し、安全な作業の教育と薬品事故防止を図りました。また水銀含有物の廃棄は廃棄物管理基準にルールの追記を行い、廃棄物置き場に水銀含有物廃棄容器の設置を行い周知徹底しました。

前年度より導入した社用車運行監視装置の搭載車を拡大しました。速度超過・急加速・急減速の情報データがリアルタイムに各事業所管理者に届き、危険運転の行為を確認し、運転者本人と所属上司へ安全運転の呼び掛けにより交通事故の未然防止を行っています。また運行監視システムの情報データを基に、リスク専門家によるデータ分析結果を交通安全講習会にて報告し安全運転の講習を行いました。

サンケングループものづくり教育

当社グループでは、サンケン電気ものづくり技術統括部が中心となって、国内グループ会社を横断した、「ものづくり人財育成」に力を入れています。実習と座学のカリキュラムで約5カ月かけて現場改善リーダーを育成します。

<教育のコンセプト>

- 気づく人づくり&気づける環境づくり教育
- 問題発見・解決力教育
- 「わかる」から「教えられる」への実践力教育

現在は9期生の教育がスタートしており、前回の8期生からは女性も実習生に加わり、卒業後は自社に戻って活躍をしています。実習生からは早速、「女性の意見も取り入れられる事によって、男性では気づかない改善案が出てきた」という話もありました。



【第8期生の座学の模様】

地域社会の各種イベントに協力することで 地域社会の発展と次世代育成に貢献しています。

当社グループは、地域密着のさまざまな活動を行い、地域社会の発展と次世代育成に貢献しています。

行政、NPO、NGO など多様なステークホルダーと対話し、地域社会の良き隣人を目指し、よりよい生活環境を共に作り、地域との共生を図ります。

地元小学生「企業エコ調査」のお手伝い

当社では、本社近くの新座市立東野小学校より「地元企業の環境に対する取組みを直接調査したい」との依頼があり、今年で4回目になる「企業エコ調査」を社内のCSR推進者の協力を得て2月6日(木)に実施しました。

来訪した新座市立東野小学校5年生10名と引率の先生は、「トランジスタ、抵抗、ダイオードなど単機能部品を組み合わせた基板」と「IC」の大きさ比較やチップの中身の話、ウェーハからチップができる話など、非常に興味を持って聞いていました。

また、LED光の三原色(赤、緑、青)を合わせ中央に白色を見ることができたことは、子ども心にインパクトがあったようです。CAD図面にも興味を示し、実際に見学したCAD室のコンピューターにも驚いていました。

最後は、LEDペットボトルの工作をして持ち帰っていただきました。最初は「サンケン電気を知らない」と言っていた小学生にも、サンケン電気を知ってもらう良い機会となりました。



後から子供達からのお礼状をいただき、対応したCSR推進者は温かな気持ちになりました。毎年の行事なので当社側の方が心待ちにしているほどです。地域コミュニケーション向上のためにも、この様な活動を継続していきたいと考えます。

将来、この子供たちの中から当社に入社される人が出る事を楽しみにしたいと思います。

障がい者支援活動へ注力

当社では、CSR推進者が様々な意見を出し合い、当社らしい社会貢献活動を立案しています。その中であらわれてきたのが、「障がい者支援」活動です。鹿島サンケンとサンケン電気の活動を紹介します。

1 鹿島サンケンでハミングハウスさん 訪問販売

鹿島サンケンでは、近隣の神栖市矢田部にある知的障がい者通所施設「ハミングハウス」さんが生産しているクッキーなどを訪問販売していただきました。この機会を設けたことについては、ハミングハウス施設長と施設の利用者さんから、感謝のお言葉をいただいています。また、購入者からは、「今日はよく売れたね!良かった!」と、とても喜ばれています。約60名もの購入協力者がおり、大盛況で定期的に開催をしています。

(2013年9月、12月、2014年3月実施)



2 サンケン電気本社でも障がい者施設支援

サンケン電気本社近くの障がい者施設「社会福祉法人にいざ 福祉工房さわらび」さんでは、保存料／着色料を使わない手作りの安心安全なクッキーを生産しています。

2月と4月に本社に障がい者施設の方たちに来社いただき昼休みに販売いたしました。販売開始直後から盛況で、障がい者の方もサンケン社員とコミュニケーションを取れたことで充実した様子でした。また、午後は社内見学をされ、喜んでいらっしゃいました。



3 障がい者が育てた花を使った「プリザーブドフラワー」の導入

サンケン電気では、材料の花に当社近隣の障がい者施設で育てたものを用いたプリザーブドフラワー^{*}を受付に飾ることで、障がい者支援を行っています。毎月季節に合わせた花に交換し、リース契約しているメーカーであるフルールドシオン(株)からプリザーブドフラワーの売り上げの10%を障がい者施設に寄付されています。

当社では本社、東京事務所、川越工場の各受付の3か所に設置を開始しました。

^{*}「プリザーブドフラワー」とは生花に特殊化学加工を施し、長期間綺麗で華やかな状態を保つ事ができる花



震災復興支援 浪江小学校生徒に工作教室

当社グループの福島サンケンがある福島県二本松市に、原発事故の影響で双葉郡浪江町立浪江小学校が避難しています。児童は全国各地に引っ越してしまい現在の全校児童数は20名を切っています。11月下旬、福島サンケンでは一般社団法人日本照明工業会様にご協力いただき、LED工作教室を実施しました。

最初、LEDキットを完成させる段階で低学年の子供達には戸惑いがあったものの、マンツーマンの指導によりLEDが点灯すると笑顔がこぼれました。最後は大きなクリスマスツリーに子供達それぞれのLED作品を飾りつけて完成させ、学校として一つの作品にしました。思い思いのイメージで作製した作品を自慢しあう様子が非常に微笑ましく、LED工作教室は成功に終わりました。



震災復興支援 工場内に復興設備を設置

当社グループ会社の福島サンケン、山形サンケンは、東日本大震災で工場が被災しました。当社は地域貢献の意味も込め、被災の経験を風化させることのないよう、両工場に当社製「ハイブリッドLED街路灯」を複数本設置しました。

風力発電、太陽光発電を兼ね備え無停電電源装置の技術を盛り込んだ装置で、長期の停電時には非常用電源としても電力を供給することができます。



福島サンケン 5基

環境活動の考え方、環境活動体制

低炭素社会の実現に向けて

当社は、かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、事業活動と環境活動の融合を図り、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指し、「エコと省エネ」を経営戦略に掲げた活動を推進しています。

環境の取組

1998年度に環境マネジメントシステム（EMS）を導入し、環境保全活動を推進しています。

また、関係会社を含めた企業グループ全体で環境保全活動を推進することにより、一層大きな改善効果が期待できることから、2000年にグループ全体の環境ビジョンとして、「SG環境憲章」を制定し、企業活動のあらゆる面で誠意と創意を持って、環境に優しく行動することを約束し、具体的な行動計画として「SG環境行動計画」を定め、実行しています。

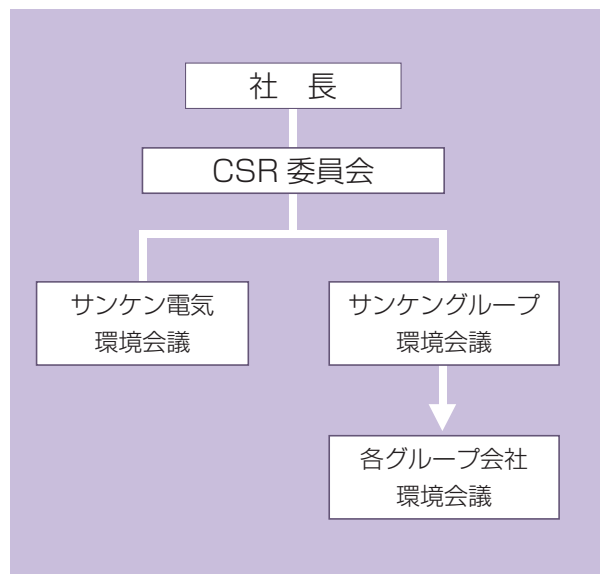
更にグループ各社ごとに「環境方針」を定め、事業特性と地域の特色を踏まえ、環境負荷低減の継続的な取り組みを推進しています。



※ SG：サンケングループ

環境マネジメントシステム推進体制

効率的かつ的確に環境経営を推進するため、代表取締役の直属組織であるCSR委員会を母体として、グループを横断する環境管理体制を構築しています。



当社は、国内13事業所、海外8事業所の製造拠点において環境マネジメントシステムを構築しており、それらは、ISO14001の認証を取得しています。事業の特性に応じた環境に配慮した製品開発、廃棄物や、資源エネルギーの削減などを通じて環境保全に取り組んでいます。

環境監査と定期審査

当社は、環境活動向上のため、毎年、自社による環境内部監査を行い、関連法規制への適合性・年間計画の進捗状況などを点検し、更に、第三者機関による審査を毎年行い当社の環境管理システムの実効性を確認しています。検出された課題などは直ちに是正措置をとり、フォローアップ監査により効果を確認しています。

化学物質管理見直し活動

当社では、法令遵守、地球環境の保全、事故の防止、労働安全や健康確保、製品安全のために、「化学薬品管理マニュアル」を策定し、化学物質の適正な管理に努めています。

また、化学物質によるリスク低減を図るために、定期的に使用・貯蔵場所のパトロールを行い、事故の未然防止に努めています。



(福島サンケンにて化学薬品管理マニュアルの教育)

法規制の遵守

当社は、コンプライアンスを徹底するため、環境に関係する法規制を捉え、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

更に、確実な法規制遵守のために、排出ガス、排水、騒音・振動等について、拠点ごとに法律や条例の規制値より厳しい自主管理値を設定しています。

2013年度も行政機関等から指導、勧告等、及び近隣からの環境に関する苦情はありませんでした。

化学物質の管理

「化学物質把握管理促進法」(PRTR法)に基づいて、事業所単位で年間取扱量が1トン以上の第1種指定化学物質と、0.5トン以上の特定第1種指定化学物質を国に報告しています。

改正水質汚濁防止法への対応

2012年6月に改正された水質汚濁防止法に対応するために、山形サンケンでは有害物質貯蔵指定施設から漏洩防止対策など実施し、2014年5月に工事が完了しました。

また、同様に漏洩対策が必要な本社と福島サンケンも対策工事の検討を行っており、法律で定められた実施期限までに対応工事を完了致します。



省エネ委員会活動

当社は、温暖化ガスであるCO₂排出量削減の重要性を認識し、省エネ対策に取り組んできました。

省エネ委員会では、各部署で改善を進めている課題の解決や、他部署に展開できる対策の水平展開を図ると共に、年1回のパトロールで運用状況の確認と改善ポイントの抽出を行っています。

環境リスク対応

1. PCB (ポリ塩化ビフェニール) の管理

トランス、コンデンサー等に使用されていたPCBは保管場所を決め集積・管理し、行政へ管理状況を報告しています。

2. 省エネ法・地球温暖化対策推進法への対応

「省エネ法」ならびに「温対法」に基づき、エネルギー管理統括者等の選任、ならびに実績報告対象の全事業所が中長期計画書および定期報告書を監督官庁に提出しました。

今後とも、法令に基づきエネルギーの消費節減および有効活用に努めてまいります。

環境パフォーマンスと具体的な活動

環境活動の状況は適宜に評価・測定され、翌年の計画に反映されます。

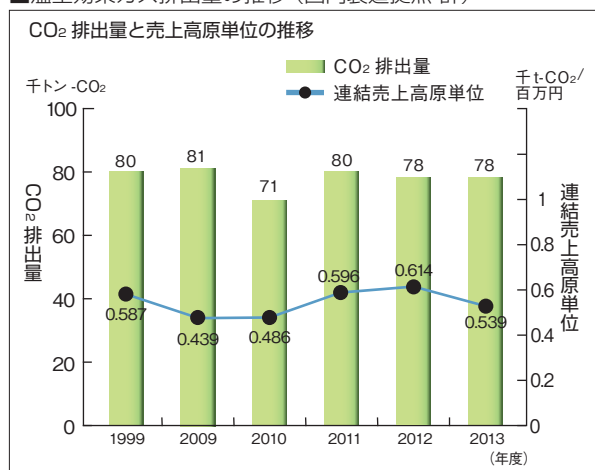
省エネ対策と温室効果ガス

地球温暖化防止に取り組むため、各事業所の有効な活動を取り入れながら、CO₂排出量の効率的削減に努めましたが、2013年度は、CO₂排出量が前年度比0.8 t超過し、削減目標を達成できませんでした。

今年度はエネルギーロス削減を図り、削減目標達成を目指します。

2013年度	目標	実績	2014年度 目標
CO ₂ 削減量	12年比 -1%	+1%	13年比 -2%

■温室効果ガス排出量の推移（国内製造拠点 計）



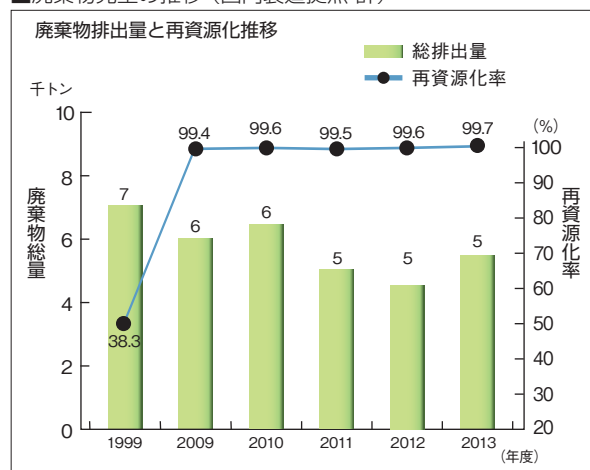
廃棄物の削減と資源循環

資源の有効利用・枯渇防止の一環として、ごみの発生抑制、排出量の削減、再資源化の推進を継続的に展開した結果、国内10拠点で再資源化率99%を達成しました。

1拠点は再資源化率が98%に留まり、更なる活動の強化を図ります。

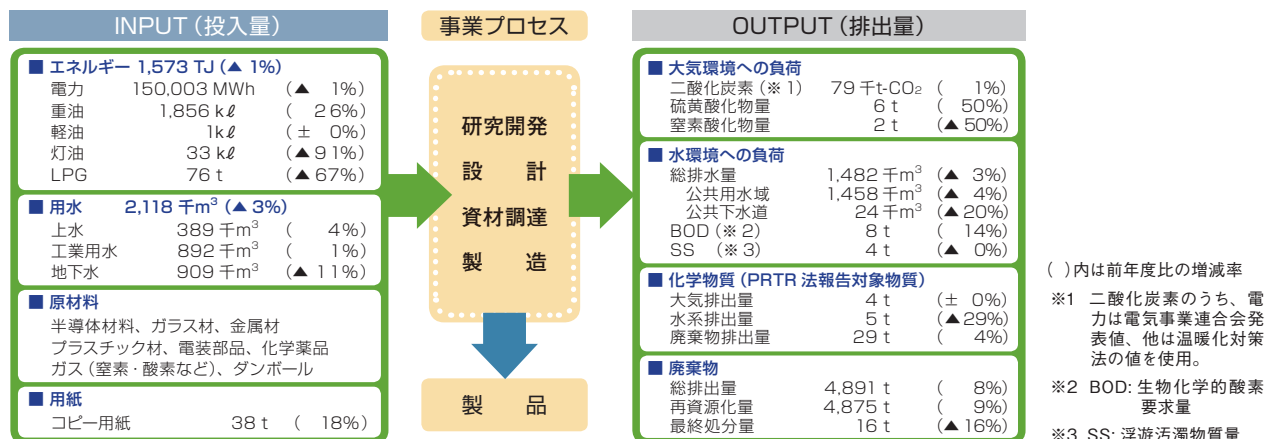
2013年度	目標	実績	2014年度 目標
再資源化	99%以上	99.7%	99%以上

■廃棄物発生量の推移（国内製造拠点 計）



事業活動と環境負荷

2013年度の国内製造拠点のエネルギー消費量、化学物質などの生産に伴う資源投入量と、二酸化炭素(CO₂)、廃棄物などの排出量は下記の通りです。

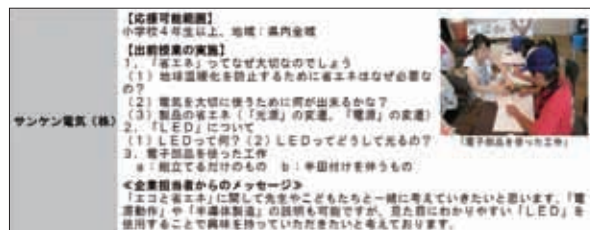


「埼玉県環境学習応援隊」企業登録完了

埼玉県では、企業が小学校、中学校、高校の「総合的な学習」などの時間帯に出前授業などの環境学習プログラムを提供し支援する「埼玉県環境学習応援隊」を募集しており、県内の学校に対し環境学習の機会を提供可能な各企業が登録を行っています。

サンケン電気も埼玉県環境部からお声かけ頂き、実施体制を整備し登録を完了しました。今後は県内

から要請があれば当社独自の出張授業をを行い、社会貢献につなげていきたいと考えています。



埼玉県のホームページより

ネットワーク型フライホイール蓄電システムの開発

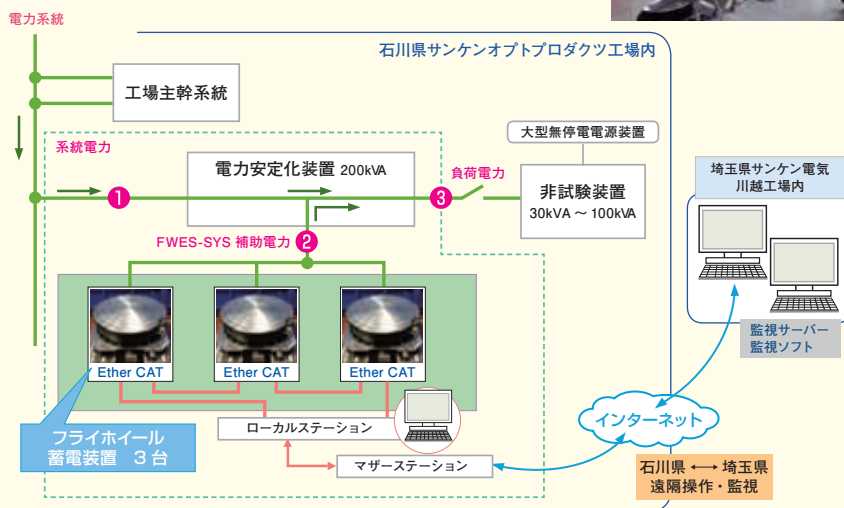
『NEDO 助成事業 <2011~2013年>』

電源装置の検査工程では、製品が実際に使用されているのと同様の状態（負荷接続）で各種試験を行っています。試験においては大量の電力を消費し、昨年はその電力を回生させ再利用をする仕組みを「大型無停電電源装置」検査工程への導入例として報告しました。今年度は更なる発展型として「フライホイール蓄電装置」による消費電力平準化の取り組みを行っています。

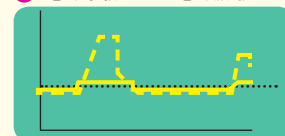


【生産工場における電力平準化の仕組み】

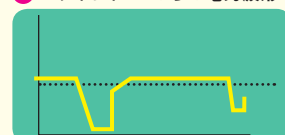
「大型無停電電源装置」の検査で負荷電力が大量に消費するなど変動しても、電力システムからの入力電力が一定になるように不足電力をフライホイール蓄電装置から出力する。



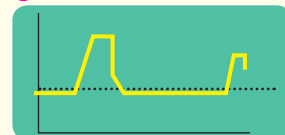
1 電力システムからの電力波形



2 フライホイールからの電力波形



3 負荷電力の電力波形



このようなシステムを石川県にある当社の生産工場である「サンケンオプトプロダクツ株式会社」に設置を完了（2014年2月）し、実験的に様々な条件の電力平準動作を連続して行いました。

「電力平準動作および遠隔操作・監視の実験内容」

- ① 充放電量と温度上昇と内部圧力等を一定時間毎に計測
 - ② ベアリング摩耗の定期的な検査
 - ③ 監視・操作作用のネットワークの連続動作を検証
 - ④ 監視データ、指令データの送受信のログを観測
- その結果、負荷電力が急変しても入力電力一定に補償でき、設置

したフライホイール3台から均等かつ安定に充放電制御できることが検証されました。

将来、たとえば工場主幹系統を風力発電に置き換えた場合、風力発電量が急変してもフライホイール装置の電力で補償することができます。

今後はこの装置の信頼性を向上させて、実用化に結び付けていきたいと考えています。来年度のCSR報告書では、具体的な効果の数値を報告できると考えます。

PS事業部 開発グループ グループリーダー 石隈 悟

GRI ガイドライン対照表

GRIはオランダに本部を置くNGOで、本ガイドラインの作成に当たる国連環境会議 (UNEP) の公認機関

項目	掲載関連ページ	備考
1 戦略および分析	3, 4	WEB 公開
2 組織のプロフィール	30	WEB 公開
3 特定されたマテリアルな側面とバウンダリー	—	WEB 公開
4 ステークホルダー・エンゲージメント	1	WEB 公開
5 報告書のプロフィール	1	WEB 公開
6 ガバナンス	15, 16	
7 倫理と誠実性	17, 18	WEB 公開
8 マネジメント手法の開示項目の手引き	以下の指標	
経済		
創出、分配した直接的経済価値	EC1 30	WEB 公開
気候変動によって組織の活動が受ける財務上の影響、その他のリスクと機会	EC2 —	
確定給付型年金制度の組織負担の範囲	EC3 —	
政府から受けた財務援助	EC4 —	※ 1
重要事業拠点における地域最低賃金に対する標準最低給与の比率 (男女別)	EC5 —	
重要事業拠点における、地域コミュニティ から採用した上級管理職の比率	EC6 19	
インフラ投資および支援サービスの展開と影響	EC7 —	
著しい間接的な経済影響 (影響の程度を含む)	EC8 —	
重要事業拠点における地元サプライヤーへの支出の比率	EC9 —	
環境		
使用原材料の重量または量	EN1 27	
使用原材料におけるリサイクル材料の割合	EN2 27	
組織内のエネルギー消費量	EN3 27	
組織外のエネルギー消費量	EN4 27	
エネルギー原単位	EN5 27	
エネルギー消費の削減量	EN6 27	
製品およびサービスが必要とするエネルギーの削減量	EN7 27	
水源別の総取水量	EN8 —	
取水によって著しい影響を受ける水源	EN9 —	
リサイクルおよびリユースした水の総量と比率	EN10 —	
保護地域の内部や隣接地域または保護地域外の生物多様性価値の高い地域に所有、賃借、管理している事業サイト	EN11 —	WEB 公開
保護地域や保護地域外の生物多様性価値の高い地域において、活動、製品、サービスが生物多様性に対して及ぼす著しい影響の記述	EN12 —	
保護または復元されている生息地	EN13 —	WEB 公開
事業の影響を受ける地域に生息する IUCN レッドリストおよび国内保全種リスト対象の生物種の総数。これらを絶滅危険性のレベルで分類する	EN14 —	
直接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 1)	EN15 27	
間接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 2)	EN16 27	
その他の間接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 3)	EN17 —	
温室効果ガス (GHG) 排出原単位	EN18 27	
温室効果ガス排出量の削減量	EN19 27	
オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	EN20 27	
NOx、SOx、およびその他の重大な大気排出	EN21 —	
水質および排出先ごとの総排水量	EN22 —	
種類別および処分方法別の廃棄物の総重量	EN23 27	
重大な漏出の総件数および漏出量	EN24 —	
バーセル条約2付属文書I、II、III、VIIIに定める有害廃棄物の輸送、輸入、輸出、処理重量、および国際輸送した廃棄物の比率	EN25 —	
組織の排水や流出液により著しい影響を受ける水域ならびに関連生息地の場所、規模、保護状況および生物多様性価値	EN26 —	
製品およびサービスによる環境影響緩和の程度	EN27 6, 7, 8	
使用済み製品や梱包材のリユース、リサイクル比率 (区分別)	EN28 —	
環境法規制の違反に関する高額罰金の額、罰金以外の制裁措置の件数	EN29 —	
製品の輸送、業務に使用するその他の物品や原材料の輸送、従業員の移動から生じる著しい環境影響	EN30 —	
環境保護目的の総支出と総投資 (種類別)	EN31 —	WEB 公開
環境クライテリアにより選定した新規サプライヤーの比率	EN32 —	
サプライチェーンにおける著しいマイナス環境影響 (現実的、潜在的なもの)、および行なった措置	EN33 —	
環境影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度を通じて申立、対応、解決を行ったものの件数	EN34 —	
社会 (公正な労働条件)		
従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率 (年齢、性別、地域による内訳)	LA1 —	
派遣社員とアルバイト 従業員には支給せず、正社員に支給する給付 (主要事業拠点ごと)	LA2 —	
出産・育児休暇後の復職率と定着率 (男女別)	LA3 —	
業務上の変更を実施する場合の最低通知期間 (労働協約で定めているか否かも含む)	LA4 —	※ 2
労働安全衛生プログラムについてモニタリング、助言を行う 労使合同安全衛生委員会に代表を送る母体となっている総労働力の比率	LA5 —	WEB 公開
傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数 (地域別、男女別)	LA6 —	
業務関連の事故や疾病発症のリスクが高い労働者数	LA7 —	
労働組合との正式協定に定められている安全衛生関連のテーマ	LA8 22	
従業員一人あたりの年間平均研修時間 (男女別、従業員区分別)	LA9 —	
スキル・マネジメント や生涯学習のプログラムによる従業員の継続雇用と雇用終了計画の支援	LA10 22	
業績とキャリア開発についての定期的評価を受けている従業員の比率 (男女別、従業員区分別)	LA11 —	
ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳 (性別、年齢、マイノリティグループその他の多様性指標別)	LA12 —	
女性の基本給と報酬総額の対男性比 (従業員区分別、主要事業拠点別)	LA13 —	
労働慣行クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	LA14 —	
サプライチェーンでの労働慣行に関する著しいマイナス影響 (現実的のもの、潜在的なもの) と実施した措置	LA15 —	
労働慣行に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	LA16 —	
社会 (人権)		
重要な投資協定や契約で、人権条項を定めているもの、人権スクリーニングを受けたものの総数とその比率	HR1 —	
業務関連の人権側面についての方針、手順を内容とする従業員研修を行った総時間 (研修を受けた従業員の比率を含む)	HR2 —	
差別事例の総件数と実施した是正措置	HR3 —	
結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされているかもしれないと特定された業務やサプライヤー、および当該権利を支援するために実施した対策	HR4 —	
児童労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、および児童労働の効果的な根絶のために実施した対策	HR5 —	

社会(人権)	掲載関連ページ	備考
強制労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、およびあらゆる形態の強制労働を撲滅するための対策	HR6	—
業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率	HR7	—
先住民族の権利を侵害した事例の総件数と実施した措置	HR8	—
人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率	HR9	—
人権クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	HR10	—
サプライチェーンにおける人権への著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)および実施した措置	HR11	20
人権影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	HR12	—

社会(社会)	掲載関連ページ	備考
事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ 開発プログラムを実施したものの比率	S01	—
地域コミュニティに著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)を及ぼす事業	S02	—
腐敗に関するリスク評価を行っている事業の総数と比率、特定した著しいリスク	S03	—
腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	S04	16
確定した腐敗事例、および実施した措置	S05	—
政治献金の総額(国別、受領者・受益者別)	S06	—
反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により法的措置を受けた事例の総件数およびその結果	S07	—
法規制への違反に対する相当額以上の罰金金額および罰金以外の制裁措置の件数	S08	— ※1
社会に及ぼす影響に関するクライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	S09	—
サプライチェーンで社会に及ぼす著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)および実施した措置	S010	20
社会に及ぼす影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度に申立、対応、解決を図ったものの件数	S011	—

社会(製造責任)	掲載関連ページ	備考
主要な製品やサービスで、安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	PR1	—
製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	PR2	— ※1
組織が製品およびサービスの情報とラベリングに関して手順を定めている場合、手順が適用される製品およびサービスに関する情報の種類と、このような情報要求事項の対象となる主要な製品およびサービスの比率	PR3	—
製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制ならびに自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	PR4	—
顧客満足度調査の結果	PR5	19
販売禁止製品、係争中の製品の売上	PR6	— ※1
マーケティング・コミュニケーション(広告、プロモーション、スポンサー活動を含む)に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	PR7	—
顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して実証された不服申立の総件数	PR8	—
製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反に対する相当額以上の罰金金額	PR9	— ※1

◇ ※1 当社業務に関連しない、または該当しない項目
◇ ※2 報告書には記載がないが、社内規則等にて別に定めのある項目

会社概要

商号 サンケン電気株式会社
Sanken Electric Co., Ltd.
本社所在地 〒352-8666 埼玉県新座市北野三丁目6番3号
設立 1946年(昭和21年)9月5日
資本金 208億円(2013年3月31日現在)
決算期 3月31日
営業・事業所 国内11ヶ所



連結子会社	韓国サンケン株式会社
石川サンケン株式会社	サンケン エレクトリック シンガポール プライベートリミテッド
山形サンケン株式会社	サンケン エレクトリック ホンコン カンパニー リミテッド
鹿島サンケン株式会社	ピーティー サンケン インドネシア
福島サンケン株式会社	サンケン パワー システムズ (ユーケー) リミテッド
サンケンオプトプロダクツ株式会社	大連三壘電気有限公司
サンケン ノースアメリカ インク	大連三壘貿易有限公司
アレグロ マイクロシステムズ エルエルシー	サンケン エレクトリック コリア株式会社
ポーラー セミコンダクター エルエルシー	三壘電気(上海)有限公司
アレグロ マイクロシステムズ フィリピン インク	台湾三壘電気股份有限公司
アレグロ マイクロシステムズ フィリピン リアルティール インク	サンケン エレクトリック (マレーシア) エスディーエヌピーイーチディー
アレグロ マイクロシステムズ ヨーロッパ リミテッド	サンケン電設株式会社
アレグロ マイクロシステムズ アルゼンチン エスエー	三壘力達電気(江陰)有限公司
アレグロ マイクロシステムズ ビジネス ディベロップメント インク	サンケンロジスティクス株式会社
埃戈羅(上海) 微電子商貿有限公司	サンケンビジネスサービス株式会社
アレグロ マイクロシステムズ タイランドカンパニー リミテッド	

事業目的

半導体デバイス事業	パワー IC コントロール IC トランジスタ 整流ダイオード 発光ダイオード(LED) LED 照明
PM 事業	スイッチング電源(SMPS) ACアダプター トランス
PS 事業	無停電電源装置(UPS) 直流電源装置 インバーター 高光度航空障害灯 パワーコンディショナー 蓄電システム

単位: 億円、人

主な業績推移(連結)

	2012年3月期 (95期)	2013年3月期 (96期)	2014年3月期 (97期)
売上高	1,318	1,263	1,444
当期純利益 (△当期純損失)	4	22	50
設備投資	128	77	104
研究開発費	115	120	145
従業員数	9,788	10,427	10,377



SanKen

サンケン電気株式会社

〒352-8666 埼玉県新座市北野三丁目 6 番 3 号
TEL. 048-472-1111

問い合わせ先



ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-002911
© 1996 Forest Stewardship Council

